

『ナレッジ・マネジメント研究』執筆要領

1. 原稿とフェースシートを提出する。
2. 原稿（研究論文・研究ノート・ケーススタディのいずれか）は日本語または英語とする。原稿はパソコンのワードで作成すること。書式は A4 版横書きとし、フォントサイズは 11 ポイントとする（注・参考文献等は 9 ポイント）。原稿の全ページについて、ページ番号を連続して打つ。日本語原稿の場合、ページ設定は 40 字×32 行とする。
3. 原稿は、テンプレートに従い、タイトル、英文 Abstract、本文（図表含）、謝辞、注、参考文献の順で構成する。
4. フェースシート 1 ページ目には次の内容を記載する。2 ページ目もチェックする。
 - ① タイトル（日本語原稿の場合は、日本語と英語の両方）
 - ② 執筆者の名前（日本語と英語の両方）
 - ③ 所属（日本語と英語の両方）
 - ④ 連絡先住所、電話番号、e メールアドレス
 - ⑤ キーワード（5 個）
 - ⑥ 投稿原稿の種類（研究論文、研究ノート、ケーススタディのどれか）
5. 日本語文および英語文原稿では、冒頭より、タイトル、著者名、英語文 Abstract（200words内）、キーワード、本文、謝辞、注記、参考文献をこの順番で記載する。日本語論文のタイトル、著者名、キーワード、本文、謝辞、注記は、原則日本語で記載する。なお、英語文については、事前にネイティブチェックを受けておくこととする。
6. 投稿時には、本文中に、執筆者の名前や所属等、執筆者を特定する情報を記載してはいけない。
7. タイトル、著者名、英文 Abstract、本文、図表、注、参考文献、謝辞を含めた原稿の分量は原則として、当学会誌刷り上がり 10 ページ以上 14 ページ以内（1 ページ=40 字×32 行）とする。なお、編集委員会が掲載原稿のレイアウトに問題があると認めた場合には、そのページ数を調整することがある。また、掲載原稿が 14 ページを超える場合には、編集委員会からの修正意見書に基づく修正原稿の再提出が投稿者からない限り、掲載されないこととする。
8. フォントタイプとフォントサイズ、送り行、インデントについては以下の指定とする。

- 表題は MS 明朝、フォントサイズ 16 ポイントとし、横方向中央配置とする
- 次にフォントサイズ 14 ポイントの空行を設け、著者名を記載する。
- 著者名は12ポイントとする。
- 英文 Abstract は、文字フォントを Times New Roman とし、フォントサイズは 11 ポイントとする。尚、インデントは 2 文字分とする。Abstract の後の空行は11ポイントとする。
- 章タイトルは、MS 明朝14ポイントとし、全角ブランク 1 文字のインデントに続けて「1. はじめに」などの章名を記す。この次の行もフォントサイズ 14 の空行とする。
- 節、項のタイトルにおいては、MS ゴシックのフォントタイプを使用し、上部をフォントサイズ 11 ポイントの空行とし、全角ブランク 1 文字のインデントに続けて節番号と節名を「2-1 知識」のように記す。項においても同様に、ブランク「3-1-2 暗黙知」のように記載する。節、項ともに本文下段行は空行を設けず後続させる。
- 本文は段落の初めに全角ブランクを置き、日本語は、MS 明朝のフォント、英字は Times New Roman のサイズ 11 ポイントにて記載する。
- 謝辞があれば、本文最終行の後に 2 行空けてから記載する。1 ブランク後、謝辞とMS ゴシックで表した後、次行よりMS明朝の 9 ポイントにて、新段落初めのみインデント全角 1 ブランクを伴い記述する。
- 注記は、謝辞または謝辞が無ければ本文最終行の次に 2 行空けてから記載する。フォントサイズ9ポイントにて 1 ブランク後、【注】と MS ゴシックで表した後、次行よりMS 明朝 9 ポイントにて、半角にて 1)に続いて全角ブランクを空けて記述する。英字は Times New Roman 9 ポイントとする。

<例>

【注】

- 1) 本章の記述で最近のアメリカにおける制度変更についてはABC氏の示唆を受けた。
- 2) xxxセンターは2024年9月30日で廃止されている。

- 参考文献は、注記の後に 2 行空けてから記載する。「参考文献」は行中央配置に MS

ゴシック 9 ポイントにて表示する。和文字は MS 明朝のフォントとし、英文字は Times New Roman、フォントサイズは9ポイントとする。スタイルはAPAに準拠する。

(英語 <https://apastyle.apa.org/style-grammar-guidelines/references/examples/journal-article-references> を参照)

<例：英語>

Grady, J. S., Her, M., Moreno, G., Perez, C., & Yelinek, J. (2019). Emotions in storybooks: A comparison of storybooks that represent ethnic and racial groups in the United States. *Psychology of Popular Media Culture*, 8(3), 207–217. <https://doi.org/10.1037/ppm0000185>

上記の参考文献のIn text citation（文中引用）は以下となる。

～と言われている (Grady et al., 2019)。

Grady et al. (2019) は、～と言っている。（3人の著者は et al. を使用し引用する）

<例：日本語>

一條和生・ゲオルク・フォンクロー (2002). ナレッジ・イネープリング: 知識創造理論の実践を目指して. *組織科学*, 36(1), 68–79.

一條和生・徳岡晃一郎・野中郁次郎 (2010). MBB: 「思い」 のマネジメント: 知識創造経営の実践フレームワーク. 東洋経済新報社.

上記の参考文献の In text citation（文中引用）は以下となる。

～と言われている (一條・フォンクロー, 2002)。

一條ら(2010) は、～と言っている。（3人の著者は「ら」を使用し引用する）

なお、文中引用が複数名になる場合は、著者の姓のアルファベット順とする。

9. 本文中の英字および 2 桁以上の数字は原則として半角 Times new Romanで記載する。数式、数値の記述は通常のシンボルを利用し、特別なシンボルは利用しない。なお、数式等については、一般の専門誌で適用される通常の約束事をこの原稿にも適用する。日本語原稿については、読点は「，」、句点は「。」を全角で記載する。

10. 図表の表題は「図1 XXX」(英語では“Figure”)と「表1 XXX」(同“Table”)とに分け、それぞれ通し番号を付け、本文中にMS ゴシック太字11ポイントにて挿入する。タイトルの挿入場所は図においても表においてもその上部中央とする。なお、表の中に使用する文字に限り、フォントサイズは 9 ポイント以上とする。図表等には、出所を明記しフォントサイズ 9 にて図表直下に図表幅の左端揃えの配置にて、「出所：xxx」あるいは、筆者オリジナルであれば「出所：筆者」などとする。また必要な場合は注釈を付ける。

<例：日本語>図 1 日本企業の知的財産権組織 <例：英語>Figure 2 R&D Productivity

<例：日本語>表 3 企業Aの事業部門 <例：英語>Table 5 U.S. Oil Price

図表はカラーでもよいが、印刷はモノクロになるので、モノクロでも判別が可能な記載とし、適切な解像度とする。図表の前後には1行の空行を設ける。